

学長・後援会顧問

平川新

宮城学院カラーについて

先日、大学からタクシーに乗った時のことです。運転手さんが、宮城学院の学生さんはとても礼儀正しいですねえ、と話しかけてきました。数日前まちなかで若い女性を乗せたのですが、話しかけても嫌がらず、とても礼儀正しい人だったので、どちらの学生さんですか？と聞いたところ、宮城学院ですと答えたので、やはりなあと思ったそうです。宮城学院の学生さんは感じの良い人が多いと思います、ということでした。その日は一日とても気持ちよく過ごせましたよ、とも言っておられました。

私の知人の息子さんの結婚相手が本学の卒業生だったのですが、その知人いわく、宮城学院らしい雰囲気、とてもやさしい嫁さんなんですよ、とメロメロの様子でした。たんにかわいいというだけではなく、宮城学院らしい、というのがポイントです。もうひとつ付け加えておきましょう。昨年、新学部の紹介で宮城県内の高校回りをした時のことです。ある校長先生から、わが校には宮城学院出身の先生がいますが、まじめで落ち着いていて安心感があり、優秀です、生徒たちからも信頼されていますよ、と言われました。別な校長先生も、宮城学院出身の先生は宮城学院らしい雰囲気がありますねえ、と話してくれました。もちろん、ほめ言葉です。

こうした話を聞きますと、宮城学院らしさというのがあるのだなあと思わざるをえません。4年間の学生生活のなかで、自然に宮城学院カラーというのが身についていくということなのでしょう。どんなカラーなのだということも、なぜそうしたカラーになるのかということも、説明はむずかしいですね。もちろん学生全員がそうだということではありません。しかし、たしかに宮城学院カラーはある、ということだと思います。

みなさんにお伝えしたいことは、そうした人格形成を可能にする学びと生活の場が、この宮城学院にはある、ということです。学業やクラブ活動をとおしての友人や教師との交わり、隣人愛と奉仕の精神をモットーとするキリスト教的文化環境など、さまざまな要素がからみあって宮城学院カラーが生み出されているのではないのでしょうか。保護者のみなさまも、お嬢様さまが宮城学院カラーに染まりつつあるかどうか、やさしく見守っていただければと思います。